



日本赤十字社

ご自由にお持ちください

秋田赤十字病院 広報紙

あいのまど



2016.10

Vol.28

開設から1年半

患者支援センターをご利用ください



当院1階にある患者支援センターは、患者さんお一人おひとりを大切に、総合的な支援を行うことを目的として昨年の3月に開設され、1年半が経過しました。西巻啓一副院長をセンター長とし、医師・看護師・メディカルソーシャルワーカー・事務員の多職種が協働し、様々な角度からのサポートを行っています。

◀ 多職種から構成されている患者支援センターのスタッフ

入院から退院までの支援

面談や相談などを通して様々な問題を早期に把握し、円滑な入院生活が送れるよう努めています。また、退院に関わる問題に対しても入院時より関わり、院内および地域の医療従事者の方々(在宅療養の医師、訪問看護ステーション看護師など)との連携を取りながら、患者さんやご家族のご希望を尊重し療養環境が整うよう支援を行っています。

他院との連携窓口

患者さんの紹介や救急受診の受付など、県内および県外の医療機関や施設等と連携する業務全般を行っています。

がん相談

患者支援センターに併設されているがん相談支援センターは、がんに関する相談ができる場所です。患者さん・ご家族はじめどなたでもご利用いただけます。がんに関する情報提供、療養上の相談(医療費、不安、副作用など)、セカンドオピニオン、患者会、リンパ浮腫ケア、乳がん術後の下着やウィッグの相談や予約などを予約なし、無料で行っています。



がん相談支援センターは薬局前にあります。

医療・福祉相談

介護保険制度を始めとした様々な制度の説明や、医療費の相談などを行っています。また、入院時から、在宅介護や施設の担当者とも連絡をとりながら、退院の支援を行っています。

どんなことでもご相談を!

患者支援センターのスタッフは、病棟・外来・地域の医療機関・介護・福祉の方々と密に連携をとり、患者さん・ご家族にとって一番よいことは何かということを、それぞれの専門性をいかしチームで検討しながら対応をしています。ご相談がございましたらどんなことでもかまいませんので、どうぞお気軽にご相談にいらしてください。お待ちしております。



毎朝行われる全員参加のミーティング。現在の入院患者数など細かい情報も共有します。

「あいのまど」とは……当院の病棟では個室も4床室も患者さん一人にひとつ窓があります。

その安らぎの療養環境からイメージを得て病院歌「愛の窓」が作られ、そこから着想したものです。

臨床心理士のこぼれ話



カウンセリングとは

丸山 真理子

カウンセリングというのは、正しいアドバイスをもったりすることではなく、正解のない答えを共に探す作業です。よく心の状態と部屋(家)の状態は似ている…なんて言いますが、どんな風に散らかっているのか(何に困っているか)、どんな部屋にしたいか(どうなりたいか)を明確にするところから始まります。

次に散らかった部屋のどこから手を付けるかを一緒に考えます。やらなきゃと思いつつも手をつけられずにいたことも、手伝ってくれる人がいると少しやる気になりますよね?でも実際に掃除をするのは、ご本人です。

いざ掃除を始めると、なかなか進まなくて投げ出したくなるかもしれないし、消したい過去を思い出させる物が出てきて愕然とすることも…。

薬と同じで、効果のあるものには副作用がありますし、人によってはお勧めできない場合もあります。散らかした分だけ、片付くのに時間がかかるところも似ています。でも、なくしたと思っていた昔の宝物を見つけて嬉しくなることもあるし、自分の良さに気づく体験をすることもあるのです。

自分の気に入った部屋になれば作業は終了です!人から見てどうかではなく、そこに住む自分が納得できることが重要なので、正解はないというわけです。



病院構内で一番多いトラブルは…

4月より、保安担当として勤務しています。病院内での危険やトラブル防止という仕事ですので、まずは人の動きとトラブルの発生状況を把握することにしました。一日平均の外来患者さんの数は、約780人です。そのうち午前8時から10時の間に付き添い方などを含め約500人が西側入口を利用します。

トラブルで多いのが車関係です。駐車場での接触事故のほか、サイドブレーキのかけ忘れのため無人の車が動いてしまうなどのトラブルが発生しています。体調が悪かったり、心配事を抱えた方が運転しているためでしょうか。

病院の安全を支えるために

車の次は、外来患者さんや付き添いの方の所在不明です。病院の中は、廊下の巡回だけで1時間かかります。慣れない患者さんなどにとっては、広い迷路かもしれません。

これで勤務の重点場所を、患者さんなどが多く利用し、車のトラブルにも対応しやすい総合案内付近と西側入口付近と決め、パトロールの腕章を付けて警戒や巡回を行っています。トラブル以外にもお手伝いできることもあります。気軽に声をかけてください。皆さんが、少しでも安心して病院に来ていただけるよう努めてまいります。

おたより
tayori



From

保安対策主任

小原 達
Toru Obara

Profile

出身地

秋田県湯沢市

幸せを感じること

- ・歩いて汗をかいた後の一杯二杯…
- ・孫との昼寝